

奈良市地震ハザードマップ

地域危険度マップ

Nara City Earthquake Hazard Map
Regional Risk Map

奈良市地震避難地図
地区危険度地図

나라시 지진 해저드 맵
지역위험도 지도

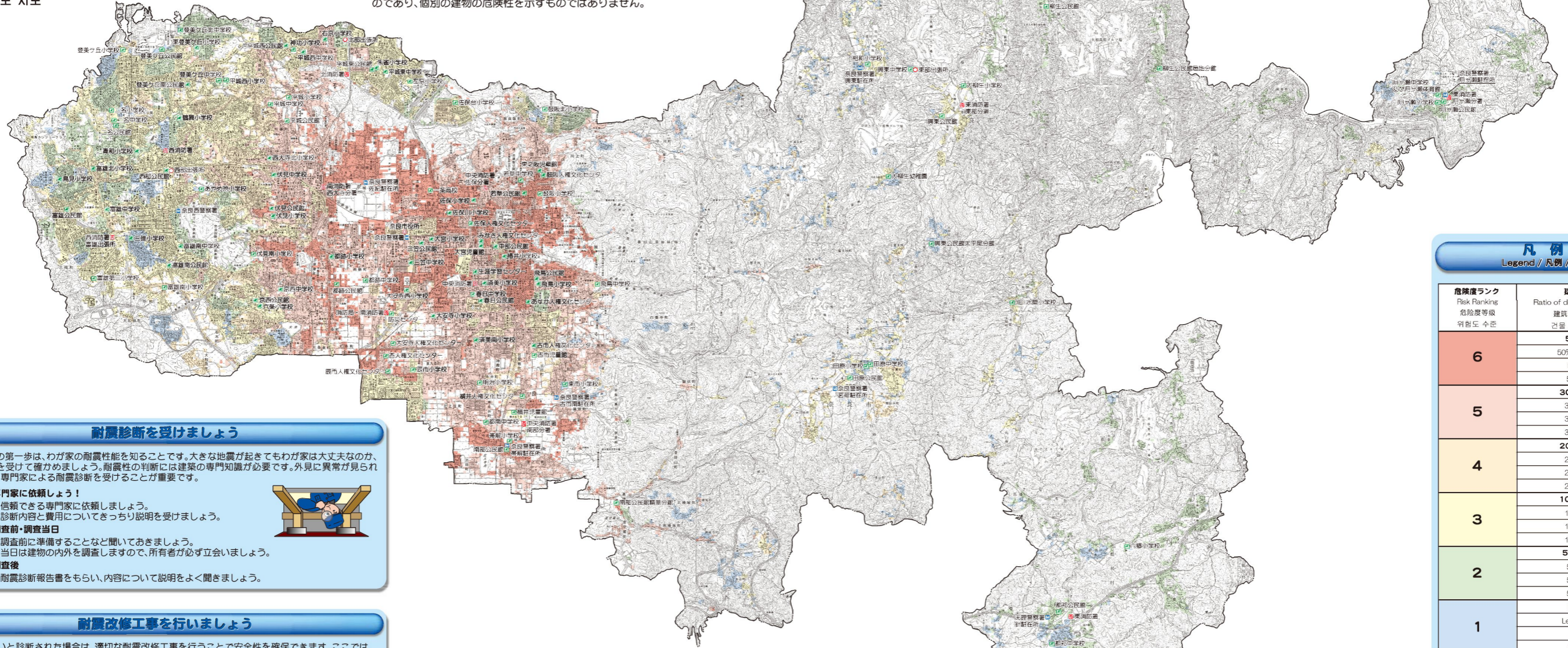
地域危険度マップについて

地域危険度マップは、地震によって発生する建物被害の分布を表したものです。具体的には、「ゆれやすさマップ」で示した強さのゆれが起こった場合の、建物被害の程度(建物全壊率)を表しています。建物全壊率は、1辺約50mのメッシュ単位で分割した地域に建っている建物の中で何割の建物が全壊するかを示します。全壊率の数値が大きくなるほど建物を受ける被害が大きくなります。

このマップの活用方法

- その1 自分の家や近所の危険度はどのくらいかチェックしましょう。
- その2 よく行くところ、よく通る道の危険度はどのくらいかチェックしましょう。
- その3 避難所までの経路の危険度はどのくらいかチェックしましょう。

※このマップで示す建物全壊率は、地域としての建物被害の危険性を示したものであり、個別の建物の危険性を示すものではありません。



耐震診断を受けましょう

地震対策の第一歩は、わが家の耐震性能を知ることです。大きな地震が起きてわが家は大丈夫なのか、耐震診断を受けて確かめましょう。耐震性の判断には建築の専門知識が必要です。外見に異常が見られなくても、専門家による耐震診断を受けることが重要です。

- ① 専門家に依頼しよう！
信頼できる専門家に依頼しましょう。診断内容と費用についてきっちり説明を受けましょう。
- ② 調査前・調査当日
調査前に準備することなど聞いておきましょう。当日は建物の内外を調査しますので、所有者が必ず立会いましょう。
- ③ 調査後
耐震診断報告書をもらい、内容について説明をよく聞きましょう。



耐震改修工事を行いましょう

安全でない診断された場合は、適切な耐震改修工事を行うことで安全性を確保できます。ここでは、耐震改修工事の主な方法を紹介します。専門家に相談してわが家にもっとも適した方法を選び、耐震改修工事を行いましょう。

「偏心」の検討

建物の片側の面に縁側やガレージなどの広い開口部が設けられているような壁の少ない建物は、地震力を受けると建物がねじれるおそれがあります。壁の無い側に耐力壁を設ける補強をして、建物全体のバランスを取りましょう。

耐震改修の主な方法

「接合部」の補強

仕口(接合部)等がどのように作られているのかを確認し、できる限り金物などでしっかりとつなぎ合わせ(緊結)するようにしましょう。

「壁」の補強

耐力壁(※)の数を増やすと建物は丈夫になります。新しい耐力壁の設置や筋かいの追加、太い部材への交換が補強の確実な方法です。

「基礎、地盤」の補強

基礎や土台がしっかりしていないと、大きな地震の時は、住宅が倒壊・大破する危険性が高くなります。基礎を補強して建物の性能を上げます。

※「耐力壁」とは、単にボードを張っただけの閉じり用の壁と区別され、構造用合板等を通り、想定される地震力に抵抗できる壁のことをいいます。「筋かい」の入った壁も含みます。

家具の転倒防止

地震発生時、家具の転倒によってケガをしたり、避難経路がふさがれてしまったりすることがあります。いざというときのために、家具の固定や置き方の工夫を行いましょう。

- 収納に工夫を
 - ・重いものは下、軽いものは上。
 - ・本棚などは、隙間をブックエンドで固定するなど、なるべく隙間を作らない。
- 照明器具の補強を
 - ・吊り下げ式蛍光灯は、チェーンなどで止める。
- 置き方に工夫を
 - ・家具の下部の前方に転倒防止のビニール樹脂状のものを入れ、壁にもたれ気味にしておく。
 - ・就寝場所には、家具が倒れてこないように配置する。
 - ・出入口や通路には、なるべく荷物を置かないように。
- ガラスの飛散防止を
 - ・割れたガラスが飛び散るのを防ぐため、ガラス飛散防止フィルムを貼る。
- 耐震金具を利用しよう
 - ・転倒防止金具
壁・柱・欄干と家具を固定するタイプと、床などに固定するタイプがあります。家具や室内の状況によって使い分けましょう。
 - ・重ね留め用金具
重ねた上下の家具を固定し、上の家具の落下を防ぎます。
 - ・扉・引き出し開放防止金具
地震発生時に、扉・引き出しが開かないように固定します。さらに、収納物の落下を防止するために棚板にふしんを置いたり、木やアルミ棒による飛び出し防止棒をつけるなど安心です。

凡例

Legend / 凡例 / 記号

危険度ランク Risk Ranking 危険度等級 위험도 수준	建物全壊率 Ratio of destroyed buildings 建築物全部倒壊率 건물 도괴(倒壊)율
6	50%以上
	50% and greater
5	30%~50%
	30%~50%
4	20%~30%
	20%~30%
3	10%~20%
	10%~20%
2	5%~10%
	5%~10%
1	5%未満
	Less than 5%

	Shelter		City Hall Branch
	避難所		市政府办事处
	대피소		시청출장소
	City Hall		Police Substation
	市政府		경찰서 駐在所
	시청		Fire Substation
			消防局分局
			소방서 본서

全壊とは？

全壊とは、自然災害による建物の被害の程度の中でも、最も大きく被害を受けた状態を指します。具体的には、平成13年6月に国より「災害の被害認定基準」が定められ、「居住する上で危険な状態」を全壊としています。

全壊	半壊	一部損壊	無被害
建物の全体、もしくは一部の構造が壊れている。	外壁や柱の傾斜が1/20以上である。	居住する上で一部支障をきたす。	壁面に亀裂が生じている。外装に若干の割傷がある。
被害が生じていない。			

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平19総環、第1175号)

作成：奈良市役所 都市整備部 まちづくり指導室 建築指導課 (平成20年3月末)